

P4-4: 松ヶ崎堀割の決壊 (新潟市北区)

江戸時代、紫雲寺潟(塩津潟)を干拓するため、日本海へ水を流す放水路を設けるとともに加治川から潟に流れ込む境川の締め切り工事を実施した。そして水量が増す加治川の排水のため、加治川が注ぎ込む阿賀野川に堀割(ほりわり)を掘ることにした。それが松ヶ崎堀割で、享保15(1730)年に完成したが、翌年春の雪融け水による洪水で決壊し、阿賀野川の本流になった。

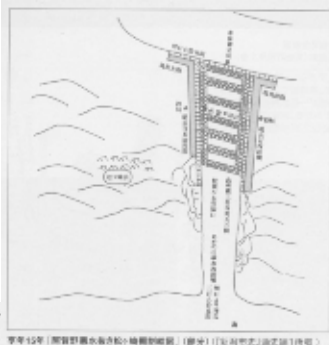


新潟市都市整備局平成14年印刷図の部分拡大

図 5 8

松ヶ崎堀割

享保15(1730)年
「阿賀野悪水抜き松ヶ崎堀割絵図」(部分)(『新潟市史』通史編1所収)



享保14(1729)年松ヶ崎堀割掘削予定地
(『新潟市史』通史編1所収「松ヶ崎悪水吐目論見候節村々相記し候絵図」を改変)



享保14年松ヶ崎堀割掘削予定地(『新潟市史』通史編1所収「松ヶ崎悪水吐目論見候節村々相記し候絵図」を改変)

図 5 9



現在の阿賀野川河口

(みなとびあ所蔵写真)

図 6 0

P4-5: 三渦水抜きと新川 (新潟市西区)

江戸時代、大潟・田潟・鎧潟
 一帯は水はけが悪く、大雨や
 雪融け水などで増水するたび
 に冠水していた。排水を良くし
 水害から逃れ、農業の生産を
 あげるため、周辺の長岡領・
 村上領の村々が参加し、新川
 となる堀割と西川と交差する
 地点での底樋(そこひ)工事を
 行い、文政3(1820)年に完成
 した。



新潟市都市整備局平成14年印刷図の部分拡大

図 6 1

新川開削路計画 模式図

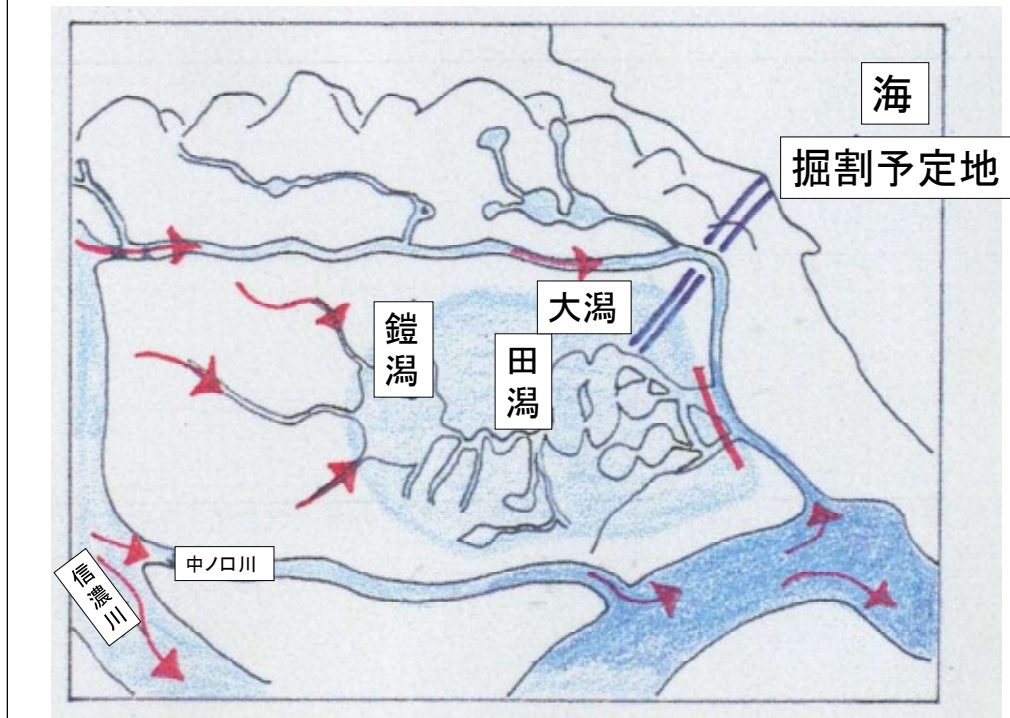


図 6 2

『滑稽旅鳥』十辺舎一九

内野砂山掘割之図「まことに、めずらしき見物ゆえ見物
おびたしく…にわかに酒屋、料理茶屋、茶屋など…」



図 6 3

来て記録したものです。そこには工事風景と、説明書きが書いてあります。内野砂山掘割の図とあり、その中に一文として、「まことに、めずらしき見物ゆえ見物おびたく・・・・にわかには酒屋、料理茶屋、茶屋など・・・・」並ぶというような感じです。これだけの大工事というのはやはり珍しかったので、観光資源になったようです。それで茶屋、茶店が出て賑わったというような記録が残されています。

工事後の現在の様子がこの上空の写真です(図6 4)。今、西川と交差しているところは新川が下を通って、上の橋に西川が流れています。はじめの工事では、木造の樋管を底にうめて、そこに水を通しました。右上の写真は、掘り割った砂丘の現在の様子です。

最後は、砂丘に挑んだ話というよりも、こういうエピソードがあったという話です。新砂丘Ⅱ、石山砂丘に、石動・岡山という地域があります。西方へ行くと石山です。この辺りにちょうど砂丘が途切れる場所があり、そこを水通しと呼んでいたようです。この水通しがトラブルのもとになっていたようです。

文政3年(1820年)、亀田砂丘より南の、小阿賀野川が決壊しました。決壊すると、そこから水が押し寄せてくるのですが、この砂丘の途切れというのは、水通しと言われるくらいです。水が通る場所になるのです(図6 5)。本当は、村人総出で決壊した場所の補修に行かなければいけないのですが、下郷という、しもの方の村々は、この水通しの場所を堰き止めてしまったらしいのです。そうすると、しもには水が流れにくくなって何とか救われるのですが、上郷、上流のほうはたまったものじゃないということになります。

結局この時はしもの堰き止めた村々がお咎めを受けたらしいのですが、こういう水通しをめぐるいさかきも砂丘のエピソードとして伝わっています。

地図を頼りに水通しの現地に行ってみました(図6 6)。地形も変わっていますのではつきりとは分かりませんが、ちょうど地図で確認できた場所が、少し下がっているのが分かります。タモリさんが行ったら、「ここが、水通しかあ」と言うと思うのですが、こういったところを確認していくことも面白いと思いました。

4 亀田砂丘を訪ねる

亀田砂丘をせっかく回ってきましたので、亀田砂丘を概観して終わりたいと思います。

これは明治の地図(図6 7)です。今日のタイトル、チラシにもありました、砂丘にちなんだ砂がつく名前があります。砂崩。俗称として砂山という呼び名もあるようです。あと砂岡。砂岡は昭和46年にできた新しい地名のようです。いずれにしてもやはり砂丘の砂というものをイメージして作られたのかなと思います。

三濁水抜きと新川



(みなとびあ所蔵写真)



金蔵坂



西川・新川立体交差

図 6 4

P4-6: 水通しとそれをめぐる争い (新潟市東区)

砂丘の切れ目では洪水時に濁流が流れる。この切れ目は水通しなどと呼ばれ、洪水時の争いの種になった。砂丘列より下流の村々は水通しに土俵などを置いて締め切ると濁流が自分たちの村に入ってこないが、上流の村では水が引かず大きな被害が出た。文政3(1820)年の小阿賀野川の決壊の時も上流の村々は決壊した堤防の水止を必死に行ったが、下流の村では応援に行かず水通しを締め切り、争いとなった。



大日本帝国陸地測量部明治44年測量図の部分拡大



新潟市都市整備局平成14年印刷図の部分拡大

図 6 5



図 6 6

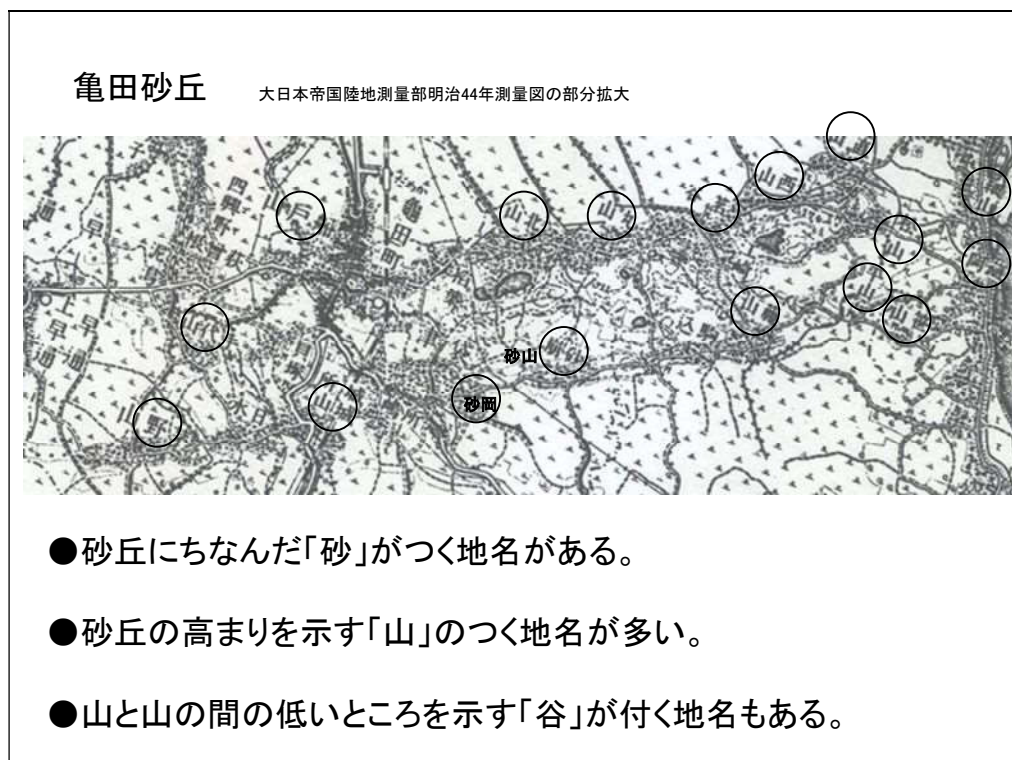


図 6 7

それと、砂以上に注目したいのが、山のつく地名が多いことです。山のつかない蔵岡というのもあるのですが、岡という高まりをあらわしているので山の仲間に入れました。この砂丘は、地図上で測ると直線距離で7キロメートルくらいあるのですが、その間にこれだけの山のつく地名があります。これも砂丘の高まりをあらわしていることが想像できます。

あと面白いのは、茗荷谷（みょうがだに）。谷がつく地名も見られます。山と山の間ということでしょうか。

それで、この会場のあるアスパークをスタート地点にして、ずっと南のほうの砂丘前列と言われるところをまず行って、阿賀野川まで行って、今度は砂丘後列のほうを通して帰って来るという流れで行ってみました（図68）。途中には砂崩など、ロケ地になったところや、あとは笹山前など、遺跡がある辺りも眺めながら行ってきました。

まず茅野山からスタートです。象徴的にある大蔵神社です（図69）。茅野山の砂丘のさらに少し小高くなっているところに神社が作られており、神社が建っている場所が砂丘の中でも一番高いのかなと思いました。この亀田砂丘のほかの場所にも行って思ったのですが、少し高くこんもりしたところに神社があります。かつては古墳ではないのかと思い調べに行ったことがあるのですが、あまりにも大きすぎるので保留中にしています。

そこから東に行くと、日水（ひみず）というところですよ（図70）。道が狭いうえに、クロスしているところも直角ではなくて微妙に曲がっていて、この辺から方角が分からなくなってきました。スマホのGPS機能で場所を確認しながら進み、何とか切り抜けました。

そこから東に行くと砂岡です。昭和46年にできた地名ということですが、砂岡公園があって（図71）、象徴的に恐竜のモニュメントがありました（図72）。少しびっくりしましたが、まち歩きの一つのポイントということで、今度、野内さんに報告したいと思います。

さらに東の方に行きます。砂岡方面から砂山方面を臨んだところですよ（図73）。砂丘の高まりが分かります。手前の低いところに田んぼが広がっている様子が分かります。

そこから砂山のほうに行った集落の中の道路が左手の写真ですよ（図74）。砂山1丁目と電柱に表記されています。

さらに東の方に向かって行くと（図75）、左側が砂山の砂丘の高まり、右手のほうが低くなって水田が開発されている様子が分かります。

さらに東に行くと、砂山1丁目5という標識があり（図76）、何かサインがあります。「ブラタモリ」と書いてあります。それを見つけてくすっと笑って、振り向くと、記憶にありますか、このビニールハウス（図77）。タモリさんが、この傾斜を見て「砂丘ですか」と叫んだところですよ（図78）。あまり訪れている人もいないようでした。

そこから少し東、右手の方に振り向くと、農道のような、砂丘のへりの道路があります。

では！亀田砂丘を歩いてみます…



亀田砂丘

新潟市都市整備局平成14年印刷図の部分拡大

図 6 8



〔茅野山〕大蔵神社：周辺より一段高くなる。

図 6 9



〔日水(ひみず)〕四差路:細く起伏とんだ道が交わる。
この砂丘上では一般的。

図 7 0



〔砂岡〕砂岡公園:砂丘にちなんだ地名。

図 7 1



〔砂岡〕砂岡公園：恐竜のモニュメント。まちあるきのポイント。

図 7 2



南側の砂岡から砂山方面の砂丘を望む：林・宅地が筋状に伸びる。
周りはたんぼ。

図 7 3



〔砂山〕砂丘上の道：砂丘にちなんだ地名。道は砂丘に沿って東西にのびる。

図 7 4



〔砂山〕左側が砂山の砂丘。低いところに水田が広がる。

図 7 5



図 7 6



図 7 7



〔砂山〕ここが、タモリさんが砂丘に気づいたポイント。

図 7 8



〔砂山〕案内人の岩野さんがおにぎりを持って登場した場所。

図 7 9

岩野さんがおにぎりを持って登場した場所です(図79)。タモリさんに勧めたけれど、断られたところです。

ちゃんと食べてくれる予定だったらしいのですが、拒否されて、岩野さんもタレントではないので、慌てて目が泳いでいた様子がテレビからも分かりました。鍋茶屋さんで作ってもらった、すごくおいしいおにぎりだったそうです。

また砂丘の道を行くと、砂山の神明宮という神社があり(図80)、ここ一帯が砂崩遺跡という遺跡になります。実は砂崩遺跡のほうが、笹山前より少し古い遺跡です。亀田砂丘最古だと思います。ここから出土した古い土器が江南区郷土資料館で展示されています(図81)。

そこから少し東に行くと、今度は砂山の砂丘から北側の砂丘後列を臨んだ風景が見えます(図82)。亀田砂丘の、砂丘と砂丘の間の低いところに、田んぼができていた様子が分かります。

今度は逆に、丸山小学校がある砂丘後列から前列の砂山のほうを見ると、やはり砂丘が伸びていく様子が分かります(図83)。

また前列に戻って、砂山からもう少し東の方に行った、藤山というところ(図84)。ここにも神明宮があって、登ってみますとやはり高いです。砂丘の上に建っている、手前の瓦屋根の家よりも少し高く、屋根を見下ろすような感じで見えます(図85)。その先に見えるのが大江山中学校です。

さらに東に進んで行って、藤山をあとにすると、一旦そこで前列の砂丘が途切れて水田になっています(図86)。直線の道路が続いて、次に平山という集落があり、平山を過ぎると、今度は笹山・蔵岡方面、やはり砂丘が途切れている様子が分かります(図87)。

ここから笹山の方に行くと、この辺り一帯が、先ほど紹介した約6,000年前の笹山前遺跡です(図88)。ここを発掘調査して出土したのが、新潟市の指定文化財になっている、美しい深鉢形土器や、石のオモリなどです(図89)。

この近くに整備されたのが大江山公園ですが(図90)、笹山前遺跡に着想した公園です。2007年から毎年、笹山前遺跡の「大江山じょうもん市」というイベントが開催されています。この公園自体も縄文時代がテーマで、縄文風の東屋といったものがあります。

そこからさらに東の方に行って、阿賀野川の土手から西側を見た写真ですが(図91)、中央に角田と弥彦があって、左側の林が砂丘前列、砂山などがある方向です。右側が砂丘後列です。この砂丘前列から後列の幅がだいたい1キロメートルくらいです。

そこから少し阿賀野川を臨んだ対岸、林になっているところが、少し砂丘の痕跡が見える高森の高まりです(図92)。そこから向こう側はしばらく砂丘が切れて、その先にまた砂丘が続く配置になっています。



〔砂山〕神明宮：この周辺が新潟砂丘で一番古い約6,000年前の砂崩（すなぐずれ）遺跡。

図 8 0



砂崩遺跡出土の縄文土器：江南区郷土資料館で展示中。

図 8 1



〔砂山〕砂丘前列の麓から砂丘後列を望む。左側の建物は丸山小学校。

図 8 2



〔北山〕砂丘後列から前列の砂山・砂崩を望む。

図 8 3



〔藤山〕神明宮：少し小高くなっているのので登ってみる。

図 8 4



〔藤山〕神明宮：眺望が開ける。正面の建物は大江山中学校。

図 8 5



図 8 6



図 8 7



〔笹山〕南側からのぞむ笹山集落。この一帯が約6,000年前の笹山前遺跡。

図 8 8



笹山前遺跡出土の土器と石錘 （新潟市文化財センター所蔵写真）

図 8 9



図 9 0



図 9 1



高森

阿賀野川対岸、北区の高森方面をのぞむ。

図 9 2



〔大江山〕高低差がある比較的高い砂丘。自転車で上るには少々キツイ。

図 9 3

砂丘後列に入って向かったところが、大江山の砂丘です（図9 3）。砂丘の前列よりも、後列の大江山側のほうが少し高いです。実は、自転車で回っていたのですが、少し登ってみようと思ったらやはりかなりきつかったです。登っていったら、こういう素敵な建物がありました（図9 4）。

前から探していて見つけれなくて、偶然辿り着いたのですが、これは旧大江山郵便局の建物です。昭和14年に建てられた近代洋風建築です。今新潟市内ではかなり数を減らしているのですが、これが残ってしまっていて、よかったなと思ったのですが、今かなりひどい状態なので、何か保存できればなと思った次第です。

そこからもう少し、今度は西側に進んでいくと、砂丘後列の北の方から、手前に県道16号が走っているのですが、そこから砂丘を見るとすごく高いのが分かります（図9 5）。

目線を変えると、これは大江山中学校（図9 6）。砂丘前列からも遠景で見ましたが、こちらから見たほうがその高さを感じられます。

もう少し西の方に進んでいくと（図9 7）、これが県道、右手のほうに砂丘で、左のほうに住宅地が見えますが、これが古代の小丸山遺跡です。この住宅地の造成のときに発掘調査された遺跡です。

写真は団地ができる前の景観です（図9 8）。砂丘の上から撮影したと思われますが、北の方に水田があって、それよりも1メートルくらい高いところから古代の遺跡が見つかります。

右下のようなものです。有力農民と思われる屋敷の跡です。立派な母屋があって、2、3軒の小さな建物があって、その近くに畑があったことが分かっています。家屋敷の地下より少し高いところに畑とか家を作って、低くなっているところに多分田んぼを作っていたのだろうと想像されています。

大江山の砂丘の上の道路はこういう感じです（図9 9）。

しばらくまた西の方へ行くと、低くなっているところがあります。ここが茗荷谷です（図100）。やはり下がっていたのだなと実感しました。谷がつく地名のところでは。

下の方まで行くと、これは北の方から南を向いているのですが、やはり谷、低いだけあって、ここに水路が流れています（図101）。右手のほうが高くなっています。

今、北側から向いているのですが、さらに北のほうに行くと、東囲（ひがしかこい）遺跡があります（図102）。現在は左の写真のように卸売場になっているところですが、ここにかつて古墳時代前期の村があったことが分かっています。建物の跡が何軒も見つかったのと、炭になって腐らないで残った炭化米が4キロも見つかっているのです。田んぼで、米づくりをしていたことが分かります。この絵は、村があってその周りの低いところに田んぼを作っ



図 9 4



図 9 5



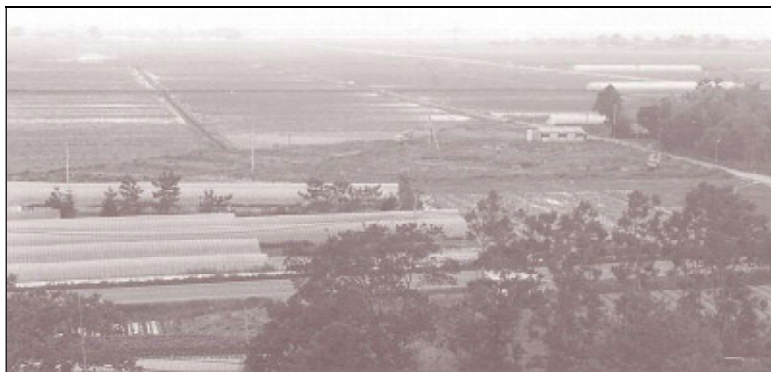
大江山: 大江山中学校の位置が高いことが分かる。

図 9 6



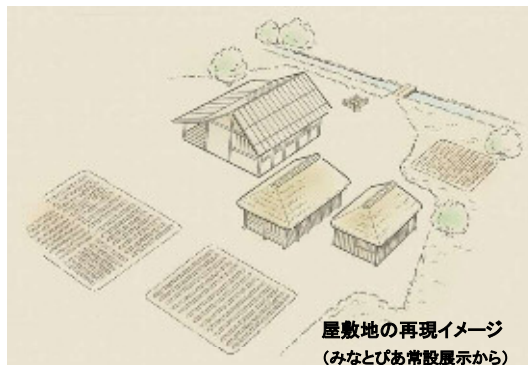
〔直り山〕右が砂丘後列。左の団地が平安時代の小丸山遺跡。

図 9 7



開発前の遺跡地。周囲の水田より1mほど高い。宅地造成のため昭和60年に発掘。
(新潟市文化財センター所蔵写真)

小丸山遺跡: 平安時代の集落跡で、
有力農民のものと思われる大型
建物や畑跡等が見つかった。



屋敷地の再現イメージ
(みなとびあ常設展示から)

図 9 8



〔大江山〕砂丘上の道路

図 9 9



〔茗荷谷(みょうがだに)〕名前の通り、谷状にくぼ地になっている。

図 1 0 0



〔茗荷谷〕低く水路がある。北側に建設された卸売市場の場所は東囲(ひがしかこい)遺跡。

図 1 0 1



図 1 0 2



図 1 0 3

ていたことを想像して描いたものです。

そこから西の方へ行くと北山です。先ほどご紹介した、北山の池があります（図103）。ここまで来るともう亀田町のほうになってくるのですが、亀田町まで行くともう地形が分かりません。迷って帰れなくなる可能性もあるので、とりあえずこのあとは、山がつく地名を辿ってきました。船戸山です（図104）。やはり入り組んだ道路があります。手代山です（図105）。そこを通過して、集落を抜けると、先のほうにここアスパーク、茅野山が見えてくるので、ここでまちめぐり、砂丘めぐりを終了します（図106）。

簡単に、亀田砂丘を回ってくださいと資料に書いたのですが、くれぐれもコンパスとか、方角が分からなくなった時に対処できる道具をそろえていただければと思います。

これで、終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。



〔船戸山〕

図 1 0 4



〔手代山〕

図 1 0 5



前方右手が茅野山のアスパーク亀田

図 1 0 6

【質疑応答】

Q 1

亀田砂丘を、一回りされたときの話の中で、説明にはなかったと思うのですが、東囲遺跡というのが出てまいりました。この場所をもう一回教えていただけますか。丸山から北山へ抜ける間かなと思ったのですが。

A 1

卸売団地ができている場所です。そこの北側の道路が走っている辺りが遺跡一帯です。

砂丘とはかかわっていないのですが、海であった頃の、少し平らで少しこんもりしたところがあって、そこを遺跡として利用したらしいのです。多分、低い場所だったので、洪水で村がだめになっていると思います。

